

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600055		
法人名	社会福祉法人 博寿会		
事業所名	グループホーム とびしま		
所在地	愛知県海部郡飛島村大字服岡4丁目4-1		
自己評価作成日	平成29年 11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、職員ともに笑顔で過ごすことができる雰囲気づくり。
-------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395600055-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395600055-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは老健に隣接して開設されていることで、老健で行われている行事の際には、ホームからも参加する機会をつくっており、利用者の外出の機会にもつながっている。ホームでも独自の取り組みが行われており、ホーム内に交流スペースが設置されている利点を活かしながら、定期的なカフェや講習会等の開催が行われている。地域の方にも案内を行い、参加してもらいながら、ホームを知ってもらう機会にもつなげている。災害訓練については、隣接の老健に避難用のスロープが設置されていることで、実際にスロープを使用する機会をつくりながら、水害の際の対応にもつなげている。また、ホームの運営母体は医療機関でもあり、医師による訪問診療やホームからの受診支援等、医療面での柔軟な支援が行われており、利用者がホームで安心して過ごしてもらえるような取り組みが行われている。
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年 12月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	① ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	① 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ③ たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と思いやりの心」という理念の基、より地域に密着した施設となるよう努めています。	法人理念をホームの支援の基本に考えながら、ホーム独自の理念もつくられている。理念には笑顔と思いやりを掲げてあり、職員による利用者への対応の基本にもつながっており、事務室内への掲示が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	飛鳥村の年間行事、敬老会や作品展に参加しています。	ホーム管理者が地域の方でもあるため、地域に関する情報を得ながら、交流の機会につなげている。また、交流スペースを活用したカフェや講習会等の取り組みが行われており、地域の方の参加が得られている。	交流スペースの活用がホームの継続したテーマでもある。医療機関を併設している利点も活かしながら、地域の方にホームを知ってもらう機会を増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	平成28年11月より認知症カフェを開始し、奇数月に定期的に開催し、ケアマネ等の専門職も参加し介護者(参加者)の相談に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	奇数月に1回会議を実施し、会議で話し合った内容をホームの運営に活かしています。	会議の際には、運営状況をまとめた資料に基づいて報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。また、家族へは今年度より全員の方への案内を行っており、積極的な参加への働きかけにつなげている。	会議の出席者が固定的になっている。地域の方、家族の参加等、ホームからの継続的な働きかけを行いながら、会議の出席者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	グループホームの運営内容を知っていただくために運営推進会議にも出席して頂き、わからないことなどあれば連絡を取り、良い関係を築いています。	市町村担当部署との情報交換等については、ホーム管理者からの他にも関連事業所を通じても行われており、運営への反映等につなげている。地域包括支援センターが行っているカフェの取り組みにホームからも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	極力、拘束はしないようにしています。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム玄関の横にある開閉ボタンが利用者でも操作できることで、職員間での見守り対応が行われている。また、関連事業所の研修会にホームからも参加しており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で学ぶ機会を持ち、研修に出席できない職員にはグループホームに持ち帰り報告し、虐待行為に気づいた場合はすぐに注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	グループホームの勉強会(会議)でテーマで取り上げ内容を理解し、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様のご家族様には十分に説明を行い、わからない事や質問はその都度質問して頂き、回答しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にご家族様全員に参加を募り、出席されたご家族様には意見や要望をお聞きしています。	関連事業所の行事の際には、ホームからも家族に案内を行い、交流等につなげている。家族からの要望等については、職員複数体制で対応していることを明記する取り組みが行われている。また、年6回のホーム便りの作成が行われている。	ホーム内に併設されている交流スペースも活用しながら、ホーム独自の交流会等の取り組みが増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のグループホームの会議と随時、意見や提案を聞き、皆で話し合い反映させています。	毎月の職員会議が行われており、職員からの意見等は管理者が把握し、関連事業所との会議等に報告し、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による面談の取り組みが行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努められていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりとまではいかないが、グループホームの職員全体が研修を受ける機会を設けていただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	機会を作っただき、徐々に参加できるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初めての利用時は、利用者様に不安を与えない様に声掛けに努め、不安なこと等も聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初めての利用時は、ご家族様にも丁寧に接するように努め、困っている事などその都度聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでは行うことができないサービスは他の施設等のサービスも紹介するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の気持ちを大切にし、思いやりの心で接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様とご家族様の関係を大切にし、なるべくたくさん触れ合える機会を作るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人に馴染みの人や場所がこれまで通りの関係が続くよう支援しています。	ホームで行っているカフェの際に、利用者の入居前からの関係の方が参加することがあり、利用者との交流の機会にもつながっている。利用者の知人と喫茶を楽しむ取り組みも行われている。また、家族との外出等の機会も得られている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の雰囲気を見ながら席の配置を変更したりするなどしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	なるべく気が付いた時には連絡、面会に行くようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族様にお聞きして把握に努めています。	職員間で利用者を担当しながら、定期的に意向等に関する意見を出してもらい取り組みが行われている。また、職員間で利用者に関する気付き等の情報を職員会議等で共有ながら、利用者への支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族様より随時、お聞きするようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録等に記入し、把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の会議で職員間で話し合い決定し、決定後にご家族様にも説明しています。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、状態変化等に合わせた見直しも行われている。職員間で介護計画の内容を共有しながら、日常の記録やチェック表に残す取り組みが行われており、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づきノート、ケース記録等に記入し、情報の共有・実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	PTの先生や鍼灸の先生に訪問して頂く等、本人様のニーズにも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア等の協力を得て支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	各利用者様の症状に合わせ、臨機応変に支援しています。	ホームの母体が医療機関でもあり、医療面での柔軟な対応が行われている。母体の医療機関が近隣にあることで、ホームからの受診対応も行われている。また、看護職員による健康チェック等や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	随時、相談・報告し、24時間連絡のとれる体制をとり、利用者様の支援に役立てています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに連絡を入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から主治医とご家族で話し合いの場を持ち、グループホームで出来ることを説明し、職員全員で取り組むようにしています。	ホームの基本方針としては、利用者のホームでの看取りには対応していないが、利用者、家族の意向等にも合わせながら、可能な限りの支援にも取り組んでいる。また、ホーム関連の特養や老健への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で初期対応の訓練を受ける機会はありました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	全職員とまではいけませんが、8割程の職員は身につけています。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。近隣に住民が少ないこともあり、関連の老健と連携した訓練も行われている。また、関連の老健に備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物が平屋であることで、水害を想定した取り組みがテーマでもある。今後に向け、関連の老健と連携した水害を想定した取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の立場になって思いやりを持って接しています。	理念にある笑顔と思いやりの心を持った対応を行うように、管理者が気になった際には、職員に注意を促す等の対応が行われている。また、関連の老健で接遇に関する研修が行われており、ホームからも職員が参加し、振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	飲み物や衣類等、ご本人様の好みのものを選んでいただくよう声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべくご本人様の希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様に合った服装、女性なら乳液の使用等を声掛けしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き等、食事前後に手伝って頂き、昼食は職員も一緒に摂り、会話を楽しみながら支援しています。	食事については、関連の老健の厨房から提供されており、ホーム内で盛り付けが行われている。身体状態に合わせた食事形態については、ホーム職員による対応が行われている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量の少ない方には声掛けにて摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	なるべくオムツに頼らない、排泄の自立を目指した支援をしています。	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で情報を共有しながら利用者に合わせて排泄支援に取り組んでいる。また、排泄に関する医療面での連携にも取り組んでおり、日常の記録にも工夫を行いながら、医療面での随時の対応にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	各利用者様に体操の時間等に積極的に取り組んでもらえるように声掛けしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日はこちらで決めてしまっているが、なるべく個々の希望に沿って入浴の支援をしています。	週2回の入浴が行われているが、時間については午前と午後に対応しており、一人ひとりがゆったりと入浴している。ホーム内に機械浴槽が設置されており、重度の方の入浴にも対応している。また、外出行事を通じた足湯を楽しむ取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々にその利用者様にあつた形で支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	だいたい理解しており、個々の状態観察は行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	なるべく一人ひとりに合ったものを見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	なるべく本人様の希望に沿ってご家族様の協力も得ながら支援しています。	日常のゴミ捨てに利用者とは出かけることで、外出に機会につなげている。季節に合わせた定期的な外出行事にも取り組んでおり、離れた場所にある公共施設等に出かける等の取り組みが行われている。また、個別の外出支援にも取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	定期的に買い物に出かけた際は、お金の支払いができる利用者様には本人様にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	なるべく支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある装飾をしたりして、居心地良く過ごせるように支援しています。	リビングはゆったりした広さが確保されており、窓が大きいことで採光にも優れていることで、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる。通路が広く、長いこともあり、利用者の機能訓練にもつながっている。また、利用者の作品等の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和気あいあいとした雰囲気づくりを心掛け、声掛けしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を使用してもらったり、置くようにしてもらっています。	居室内に収納スペースの設置が行われていることで、車椅子の方にも配慮した対応が行われている。利用者、家族の意向にも合わせた持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所等が一目でわかるように貼り紙をしています。		